

会 議 録

会議の名称	まち・ひと・しごと創生総合戦略等検討委員会（第1回）		
事務局	企画財政部企画政策課企画政策係		
開催日時	平成27年9月4日（金）午後6時03分～午後8時10分		
開催場所	前原暫定集会施設2階B会議室		
出席者	委員長	渡邊 嘉二郎	委員
	副委員長	本間 紀行	委員
	委員	田村 裕一	委員 飯田 千洋 委員
		川合 祐之	委員 北島 彩子 委員
		小宮 貴大	委員 鳴海 多恵子 委員
		河野 律子	委員
市長	稲葉 孝彦		
事務局	企画政策課長	水落 俊也	
	企画政策課長補佐	中田 陽介	
	企画政策課係長	廣田 豊之	
	企画政策課主任	津田 理恵	
	株式会社創建	大谷 優	
		氏原 茂将	
傍聴の可否	Ⓐ 一部不可 不可		
傍聴者数	0人		
【会議次第】			
1 依頼状の交付			
2 委員長・副委員長の互選について			
3 会議の運営等について			
4 人口ビジョン及び総合戦略の概要・策定方針について			
5 全体のスケジュール等について			
6 市の現状分析について			
7 次回以降の開催日について			
8 その他（意見交換等）			

【会議結果】

1 依頼状の交付

○市長挨拶

- ・ただ今、9名に委員をお願いさせていただいたが、委員の方々は、若い方々が多く、また男女の比率もほぼ均衡し、公募市民の方をはじめとして、さまざまな立場の方が参加いただいております、あらゆる角度からの有意義な議論になるのではないかと楽しみにしています。
- ・まち・ひと・しごと創生というのは、人口減少問題の克服や地域の活力の維持ということを目指しているが、どちらかというところ、地方にその中心があり、小金井市を含む東京都はまだ他人事であると感じる方が多いかもしれない。実際、人口について言えば、小金井市は現在、若干人口は増え続けている。しかしながら、都心からも近く、中央線沿線という、立地に恵まれているにも関わらず、今後小金井市においても、数年後には人口のピークがきて、減少に転じることは避けられない状況である。人口減少自体を食い止めることは難しいわけであるから、できるだけ減らないようにするためにはどうするかといったことが重要になる。そのためには若者はもちろんであるが、幅広い世代の方々の多様なご意見が必要である。
- ・みなさんには、日頃感じることなど、率直な意見を出していただくとともに、闊達なご議論をいただき、小金井市の活力ある未来へ向けのご提言を頂戴できることを期待している。

2 委員長・副委員長の互選について

【決定事項】

委員長：渡邊委員、副委員長：本間委員

3 会議の運営等について《資料No.2、2-1、2-2、2-3》

○事務局から説明

- ・会議録の作成方法を協議いただきたい。（市民参加条例施行規則第5条に従って①全文記録、②発言者の発言内容ごとの要点記録、③会議内容の要点記録のいずれか）《資料No.2、2-1、2-2》
- ・傍聴環境の整備に関して、傍聴者の意見を積極的に反映できるようにするため、意見・提案シートを市のいくつかの会議で設置している。この審議会で設置するか、運用をどのようにするか協議いただきたい。《資料No.2、2-3》

○主な意見

- ・全文記録では、情報量が多く誰も読まない。発言者の名前を明記すると発言しにくいという側面もある。要点のみというのが、一番効率的で経済的である。

【決定事項】

- ・ 会議録の作成方法は、（発言者名は記入しない）会議内容の要点記録
- ・ 意見・提案シートについては、無記名では参考資料、記名がある場合には資料として取り扱う。
- ・ 傍聴者の写真撮影は配慮いただきたい。

4 人口ビジョン及び総合戦略の概要・策定方針について

○ 渡邊委員長から説明

- ・ 議論のフレームについて話をしたい。国が示した基本目標（資料No. 3参照）は4つ（「地方における安定した雇用を創出する」「地方への新しいひとの流れをつくる」「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」「時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する」）あり、全国の自治体が準拠するものとなる。まち・ひと・しごと創生総合戦略は、地方の話のように思われるが、拡大解釈してとらえるべきだ。
- ・ 一方、小金井市には、「小金井しあわせプラン」という長期総合計画がある。10年間の小金井市の運営についての基本方針で、来年度から後期5年間の計画期間に移る。「小金井しあわせプラン」は今回検討する総合戦略の上位計画に当たるため、総合戦略はそれと矛盾のないようにする必要がある。「小金井しあわせプラン」は4つの柱（「環境と都市基盤」「地域と経済」「文化と教育」「福祉と健康」）が示されているので、総合戦略の検討においても、その枠組みを意識して、いかせるように議論していきたい。

○ 事務局から説明《資料No.3》

- ・ 国がまち・ひと・しごと創生法（平成26年11月制定。目的：急速な少子高齢化の進展に的確に対応し、人口の減少に歯止めをかけるとともに、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持していく）に基づき、2060年までの長期ビジョンと、2019年までの5カ年の総合戦略を策定した。5カ年の総合戦略には、基本目標に対してどのような施策を打ち出し、どのような数値目標を設定していくかが書かれている。
- ・ 国の総合戦略を受け、各自治体においても、その地域の実情に合った地方人口ビジョンと地方版総合戦略を平成27年度中に策定することが努力義務として課された。人口ビジョンについて、人口の現状分析を行い、将来展望を出し、それを実現するために、国と同じように基本目標や具体的施策を打ち出す総合戦略を策定する。
- ・ 国の基本目標のうち、「地方への新しいひとの流れをつくる」については、東京都内の自治体としては地方の移住者を増やすことはなかなか考えにくいこともあるため、地域の実情に応じた基本目標を設定していく必要がある。

- ・人口減少の原因として、大都市における超低出生率や、地方における都市への人口流出や低出生率があることから、東京一極集中の是正と若い世代の結婚・子育ての希望実現が必要で、地域の特性に応じた処方箋が必要。
- ・策定のポイントとして、明確な目標とK P I（重要業績評価指標）を設定し、効果を検証することや、あらゆる人（産官学金労言、女性、若者、高齢者など）の協力・参画を促すことも挙げられている。

○事務局から説明《資料No.4》

- ・「小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定方針」では総合戦略を市としてどのような方針、考え方で策定していくのかを示している。
- ・（1 策定趣旨）人口について、東京都においては今年、小金井市においては平成32年をピークに減少に転じると見込まれる。そのような状況において、市民の生活を守り安定・発展させることを最優先にし、人と人とのきずなをいかした参加と協働による創造的なまちづくりを進めるため、総合戦略を策定するとした。
- ・（2(1) 人口ビジョン）人口の現状を分析、把握した課題を踏まえて、市民の進学・就職・出産・子育てに関する意識等を把握した上で、目指すべき将来の方向を提示し、自然増減や社会増減に関する見通しを立て、市の将来の人口を展望する。（対象期間：平成27年度から平成31年度まで）
- ・（2(2) 小金井市総合戦略）人口ビジョン及び小金井市の実情等を踏まえた5カ年の基本目標、講ずべき施策に関する基本的方向、実施する具体的な施策を盛り込む。基本目標については、具体的な数値目標を示し、具体的な施策につきましても、それぞれに対してさらに客観的なK P I（重要業績評価指標）を設定する。（対象期間：平成27年度から平成31年度まで）
- ・（3 策定の考え方）市の第4次基本構想・後期基本計画（小金井しあわせプラン）との整合を図る。具体的には、後期基本計画に位置づけられる重点プロジェクトを軸に、施策の基本的方向性を定めていきたい。また、数値目標であるK P I（重要業績評価指標）の設定についても、後期基本計画に定める数値目標である成果活動指標と整合を図っていきたい。また、国・都のまち・ひと・しごと創生総合戦略とも整合を図っていきたい。
- ・（4 策定にあたっての基本的視点）人口ビジョンと下記3つの視点を踏まえたものを策定していきたい。
 - (1) 小金井市のまちの魅力を市内外に発信することにより、交流人口の増加を図るとともに、定住化を促進し、地域の活性化につなげる。
 - (2) 将来にわたって安定した人口構成を維持するためのまちづくり

を推進するため、市民がいきいきと多様な働き方を選択でき、若い世代が安心して結婚・出産・子育てできる地域の実現を目指す。

(3) 時代にあった地域をつくり、市民にとって安全・安心で快適な暮らしを営むことができるようなまちづくりを進める。

- ・(策定体制) 内部組織「小金井市まち・ひと・しごと創生本部」が総合戦略の素案を示し、それに対し外部組織「小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略等検討委員会」が意見や提言を行い、固めていく。また、市民アンケートやパブリックコメント、市民説明会を実施して意見を聴取し、市議会に対しても報告を行う。

- ・(6 効果の検証) P D C A サイクルに基づき、達成度合いを確認し、必要に応じて改善等を行っていく。

- ・(7 策定スケジュール) 後ほど説明する。

5 全体のスケジュール等について《資料No.5》

○事務局から説明

- ・本日の含め計6回の開催を予定している。第2回に人口ビジョンの素案、第3回に総合戦略の素案について説明する。第4回、第5回に引き続き検討を行い、12月中に素案を固めていく。1月に市民説明会、パブリックコメントを実施し、その意見を踏まえた検討を第6回に行い、最終的には3月までに人口ビジョン及び総合戦略を策定する。

- ・現在、市民アンケート(進学・就職・出産・子育てなどに関する意識調査)を実施しているが、この分析結果を後日お示しする。

○主な意見

- ・市民説明会に委員は出席する必要はあるのか。

→市民説明会をどのような形で実施するか検討中である。(事務局)

6 市の現状分析について《資料No.6》

○事務局より説明

- ・「小金井市人口ビジョンに関する統計データ」を用いて説明。全体を通し、比較的産業は弱いかもしれないが、住みやすさという点では非常に高いまちなのではないかと見ている。

7 次回以降の開催日について

平成27年10月6日(火) 18時～

8 その他(意見交換等)

○主な意見

- ・小金井市の現状分析にて、他市との比較を聞いたことがよかった。市内のことは実感で分かるが、比較が知れてよかった。

- ・周囲の家庭が、小金井市から府中市・小平市に転出する。転入は杉並区からが多い。小金井市で生まれ育った者としては、残ってほしいと思っている。

- ・小金井市に転入してきた者として現状分析は興味深かった。自分も転

出する可能性があるが、小平市・府中市への転出が多い理由が分からなかった。

- ・ 近隣自治体へ転出される理由がアンケートの分析でわかれば、何かしら打つ手が見えてくるかもしれない。
- ・ 多摩地域は進学を機に上京する人が住み、その後転出してしまう傾向があるが、転出する理由を把握し、その対応を検討するべきだ。産業は難しいとは思いますが、詳細なデータを提示してもらいたい。都心に勤務しやすく、住みやすいまちということだが、住む理由を議論していきたい。それを伸ばせばよいと思う。
- ・ 産業が弱いところがある。仕事場が近ければそこに住むというのもある。産業があれば活性化するだろう。ただ、産業を強くするのか、それとも、もっと住みやすい、子どもが育てやすいというところから人を増やすのかということと、いろいろな視点で見ていかないと策定できないと思う。
- ・ 自分の生活圏は基本的には京王線沿線だが、小金井市との接点として、武蔵小金井駅前にはJR線を使うときやイトーヨーカドーに買い物に来ることもある。
- ・ 自分の周辺の学生は小平市に住んでいる。小金井市よりも家賃が5,000円程度安いそうだ。小金井市は土地がワンランク高い印象がある。小金井市は学力が高いが、公立小・中学校の設備は十分でない。府中市に住みたいと思う人もいるようだ。府中市も必ずしも土地は安くはないが、いろいろな税制面で保障があるようだ。環境的に住みやすいということに住む場所を選択できるのは、経済的な安定感のある層で、まずはそこに住める条件が整っているかというのがある。市内には、宅地面積の広いエリアがあり、次の世代がそのまま住んだり、長く住むことができる環境だと思う。マンション開発などがあれば人口が流入するので、まちづくりの可能性も検討したい。
- ・ 交通の利便性の高いベッドタウンとしての魅力があるが、反面、土地利用の制限を受けてもいる。公園が多いことも、非課税の土地が多いことでもあり税収につながっていない。魅力は表裏一体だ。住みやすさを捨ててまで企業誘致や公園の削減を行うのかは、これまで住民の方は望んでいない経過があった。小金井に愛着を持ってくださっている委員から有意義な意見をいただきたい。
- ・ 冬のニューヨークでタクシーを待っていたところ、子どもがいるから先に乗せてもらったことがある。それでニューヨークが好きになった。そういうエピソードがあれば、人はまちを好きになる。ちいさなことでもよいので、小金井市でもそのようなエピソードがあれば、楽しく住めるまちになるのではないか。

～以上で会議終了～